

平成 22 年度 習志野市史編さん委員会会議録（要点）

日 時：平成 23 年 1 月 14 日（金） 午後 2 時～午後 3 時 15 分
場 所：教育委員会 1 階大会議室
出席委員：相澤莊重委員長、上山和雄副委員長、井上美穂子委員、長谷川隆委員、
鶴岡智委員、宇田川栄一委員
出席職員：生涯学習部長 藤田勉、生涯学習部副技監 及川隆志、
社会教育課長 星昌幸、社会教育課文化財係長 猪股昭喜、
社会教育課主査 白鳥章、主任主事 松浦史浩、主事 小林辰哉

会議次第

1. 職員紹介
2. 部長挨拶
3. 委員長・副委員長選出
委員の互選により、委員長に相澤委員、副委員長に上山委員が選出された。
4. 委員長挨拶
5. 会議録署名人選出
委員名簿の順に従い、相澤委員と井上委員が、会議録署名人として選出された。
6. 報告事項
 - (1) 市史刊行物の販売状況
 - ・『習志野市史』等市史刊行物の販売状況について報告。
 - (2) 市史調査
 - ア 市史関係資料の収集・調査
 - a 文献資料の収集・調査
 - ・習志野市の歴史に関する文献資料の収集について報告。
 - b 写真資料の収集・調査
 - ・習志野市の歴史に関する写真資料の収集について報告。
 - イ その他調査
 - a 広報掲載「新ならしの散策」に関する調査
 - ・『広報習志野』に掲載している「新ならしの散策」に伴う調査について報告。
 - b 千葉県北西部地区文化財発表会に伴う調査（後述）
 - c NHK「スペシャルドラマ 坂の上の雲」放映に伴う関連資料調査
 - ・秋山好古や大久保の騎兵旅団・騎兵連隊に関する問合せが増えているため、教育委員会の資料の再確認や、歴史的な事実の確認作業等を行っているが、日露戦争時の騎兵旅団や、秋山好古が大久保に勤務していた頃の文書や写真などの歴史資料は、教育

委員会では所蔵していない。

(3) 市史関係資料の保存と活用

ア 史資料の整理・保存

- ・これまで収集した歴史資料の保存・整理を継続的に行っている。

イ 史資料の活用

a 『広報習志野』「新ならしの散策」(前述)

b 千葉県北西部地区文化財発表会

- ・平成 21 年 12 月、野田市において「わがまち たてもの自慢」というテーマで開催された千葉県北西部地区文化財発表会について報告。
- ・習志野市は「習志野市のまちなみと旧鵜田家住宅」と題し、旧鵜田家住宅を中心とした発表とパネル展示を行い、併せて、今和次郎が大正 15 年に当時の津田沼町を訪問した際のメモとスケッチに関するパネル展示を行った。

c 所蔵資料の利用依頼に対する許可

- ・習志野市で所蔵している資料の利用依頼に対する許可について報告。

ウ その他普及活動

- ・歴史に関する各種講座に、講師を派遣した。
- ・市民、団体、他の自治体などからの歴史に関する問合せに対し、適宜回答した。

(4) その他

ア 文化財関係の報告

a 旧大沢家住宅・旧鵜田家住宅について

- ・「旧鵜田家住宅お月見の会」が、今年の 9 月 22 日、初めて開催されたことを報告。

b 埋蔵文化財について

- ・実籾 3 丁目遺跡の発掘調査について報告。

c 選定保存技術保持者の認定について

- ・市内在住の田中重己氏が、今年の 9 月 6 日、文部科学大臣から選定保存技術「表具用刷毛製作」の保持者に認定されたことについて報告。

【質疑・意見】

○委員 市史の編さんというのは、こういう形で組織を残していくことと、世の中の変化に応じて過去の歴史を見直していくという作業が必要になる。そのためには、役所を含めた様々な団体の活動の記録をきっちり残していくという作業が不可欠である。

○委員 行政資料の保存に関して、廃棄文書はどのように処理されているのか。

○事務局 永年保存、10年、5年、3年、1年で分け、永年のものは市の倉庫に残して

いるが、それ以外の保存期限が切れたものについては、それぞれ担当が必要性に応じて更に延長するかどうか判断をした後、廃棄している。

- 委員 それぞれの担当部局だけで判断するのではなく、市の歴史・資料を保存していくという視点から行政資料を廃棄・保存する仕組みを作っていただきたい。
 - 委員 市民の方が読み易いテーマを見つけ、数百円で販売できるようなブックレットを作成したり、習志野の面白い資料を集めた資料集の作成をしていただきたい。
 - 委員長 広報普及活動ということでは、『広報習志野』の「新ならしの散策」を再編集してブックレットを作成するようなことも考えていただきたい。それから、習志野四中「総合学習の時間」に講師派遣をしたとあるが、このような小中学生へ習志野を知ってもらうことについて積極的に取り組んでいただきたい。
 - 事務局 「新ならしの散策」については、市のホームページで全て公開している。刊行物については、「新ならしの散策」などの案も含め、様々な角度から検討している。
- (以上)